

日本で楽しくムスリム育児講座&座談会① 2009年11月21日(土)

金山佐保せひら

0、今後の予定

それでは、第1回 日本で楽しくムスリム育児講座&座談会をはじめます。本題に入る前に、今回を含めて全部で3回を予定しております、この講座の全体的な案内をさせていただこうと思います。

まず第1回は、タイトルを「自分でできる やる気をひき出す 家庭でのムスリム子育ての環境づくりのヒント」としまして、主に家庭内のお話をしていこうと思います。第2回は「こんな親の会があります」ということで、ムスリムの親どうしのつながりのお話をしていきます。第3回は教材についての紹介や使い方の提案と、リーフレットを作るとしたら、ということであまり対外的なお話をする予定です。座談会は「リーフレットを作るとしたら」というタイトルで、グループに分かれてワークショップ形式で行う予定です。

講座 自分でできる やる気をひき出す 家庭でのムスリム子育ての環境づくりのヒント

1、頭でっかちなムスリム育児をイメージしていませんか？

ムスリムの育児とか子育てといった場合に、何かマニュアルのようなものを、無意識に求めているようなことって、ないでしょうか。育児書みたいなものの、ムスリムバージョンみたいなのがあって、そういうのがあればできるみたいなイメージ、あるいは「ちゃんとしたムスリム育児」みたいな、理想形みたいなのがあって、それに合わせていかなきゃいけないみたいなイメージがないでしょうか。もう一つ、ムスリムの子育てといった場合に、サラートのやり方やクルアーンのスーラとかドゥアとか、何かを憶えさせること、だけがムスリムの子育てというイメージがないでしょうか。少し極端な話かも知れませんが、つまり、頭でっかちなムスリム子育てをイメージしていませんかということです。

私は、頭でっかちな子育てではなくて、まずは体と心に着目したほうが良いと考えます。分かりやすい例で言うと例えば「身辺自立」です。

<身辺自立がすべての基礎に>

私は障害のある子どもがたくさん在籍している公文式教室で仕事をしていたことがあります。そこで、障害のある子どもだけではなく、いわゆる「英才教育」的なことに関わってもしました。英才教育では、その子どものどこに着目していたかということ、記憶力でも作業力でもないのですね。身辺自立ができていないかどうかだったんです。少なくとも私の勤務先ではそうでした。例えば、教室に入ってきて下駄箱に靴が入られるかとか、筆箱や鉛筆の扱い、それとか人にいろいろ言われたりきいたりしなくても自分で最後まで終わらせるか、などです。そういうことができていない人は、たとえ最初は勉強が進むように見えても、どこかで必ず頭打ちになっていました。子どもは丸暗記が得意ですので、何かの調子である程度のところまで行くこともありますが、かなしいことですが絶対にどこかで限界が来るのです。逆に、最初はどこかぼんやりしていたり、ゆっくりだったり、全然目立たないようでも、自分で身の回りのこ

とがきちんとできている人は、たとえゆっくりでも、後からじわじわと来まして、どこかで最初早かった人を追い抜いていってしまうのです。そしてそのままぐーんと加速してどんどんできるようになっていってしまいました。そういう例を何例もみてきました。もちろん障害児教育でも、身辺自立はすべての基礎であるということでもとても大切に考えています。

身辺自立とは、具体的には食事の自立、排泄の問題（本当にトイレの力は全部に関わってきますので）、それから衣服の着脱、それ以外の身の回りのものの扱い、そして遊びなどです。遊びというのも、子どもって自動的に自然に遊ぶような感じがしますが、力が無ければ遊ぶこともできないんですね。遊びが続かないとか、遊びに深さがなくて遊びこめないとか、そういうのが現れてくるのです。遊びを含めて身辺自立ができていくかが大事だと思います。

<感覚統合>

身辺自立はなぜすべての基礎になるのかということ、少しだけ詳しくお話します。感覚統合理論というのがあります。発達を階層で考えるんですね。先ほど頭でっかちと申しましたが、一般的にはどうしても、いわゆるお勉強的なことが一番気になりますよね。ですが、この図（図1）を見てください。

まず最初に触覚、前庭覚、固有覚、視覚、聴覚などの発達があります。視覚と聴覚は分かりやすいですが、触覚、圧覚、痛覚とか、自分の体の回転やバランス、定頸（首のすわり）なども大事ですね。その上で、はう、座る、立つ、姿勢保持、飛ぶ、まわるなどの粗大運動、身の回りのものの簡単な操作（食事、排泄、着替え、おかたづけなど）がきます。さらにその上で、巧緻性が出てくるんですね。目と手の対応動作などですが、具体的には書字や、はさみの使用、折り紙、ジッパー、ボタンなどが使えるなどのことです。これらのしっかりしたベースの上に、言語や認知、学習が成り立ってくるのです。

焦ってこの一番上ばかり気にしていても

頭打ちになるんですね。逆に言えば、上の部分でつまずいているように見えるとき、実は下のところで何かひっかかっていたりします。スプーンがうまく使えない、そういう時、実は姿勢保持ができていないのが原因だったりします。遠回りのようでも、下からきっちり積み上げることが大切なのです。下にいけばいくほど、量、つまり回数と時間が必要になってきますから、小さいうちにできるだけさせてあげたほうが良いですね。難しいことはありません。いわゆる、子どもらしいことをするという事です。泥遊びとか粘土遊びとか水遊びとか、ぐるぐる回しとか高い高いとか、外や、特に自然の中で遊ぶと感覚が全部揃ってますけど、いつもは無理だったら、いろんな素材を触ったり、びりびりにしたりとか、いろいろ遊ぶこと、養育者とのふれあい、やりとりなどで、感覚統合に必要な感覚が満たされていくと思います。とにかく子どもがやたらとやりたがるのが、そのときに求めている感覚ということが多いように私は思います。

そして結局それが、「自分でできる」ということにつながるのです。自分と自分の外側という感覚が出てくることで、「自分」が分かる、ということにもつながっていきます。そしてそれは、イスラームの信仰の問題とも関わってくると私は考えます。

<世界を感じるちから>

＝アッラーを知るちから>

私は、感覚とはつまり、世界を感じるちから、自分の身の回りの世界から、そこにあるアッラーからの情報を読みとるちからだと思うんですね。そこに意味や意図を見出せるちからでもあると思うのです。その世界には人も含みます。人もアッラーの情報を得る貴重な媒体ですね。そもそもムスリムの信仰というのも預言者さま（SAW）から脈々と受け継がれてきたわけですし、学業や学問的なこと、社会的なことなど人を通して学ぶこともたくさんあります。その、一番基本的なところは、「この人が何かすることは自分にとって意味がある」という、基本的な構えができ

るかどうかだと思うのです。コミュニケーションでも何でもそこから始まるのではないでしょう。全身で、世界からアッラーの意図、意味を読みとっていける身体が育つ、ということはつまり、心が育つことでもあると思うのです。

自分でできるようにするためには、自分でする経験をたくさん積むしかありません。でも、水にぬれてビショビショとか、泥でよごれてグチャグチャとか、大変ですよ。お洗濯、お掃除、大変お疲れさまでございますが、ただ小さいときにそういうことをたくさんしておくことが、子どもにとって本当に大事なことです。子どもらしい育ち方をするのが、人間らしい人間になることにつながり、そしてそれが信仰にもつながると私は考えます。

2、自分でできる やる気を引き出す環境づくり

では、今度は子どもが身の回りの世界から読みとるちからを活かした子育てについて考えていきます。先の公開講座でもお話をさせていただいたように、「示す」ということ、子どもが自分でできる、子どものやる気を引き出す環境づくりについてみていきます。

①介入しすぎない

まずはじめは、介入しすぎないことです。子育てとか教育とかいうと、どうしても、大人としては、子どもに何か働きかけること、何かすることというふうに思いますよね。多かれ少なかれみんなそうイメージすると思うんです。でも、子育てや教育の目的は、子どもができることを自分でできるようにすることですから、大人の手助けというのはゆくゆくは減らしていかないといけない。そういう方向で手助けというものをしていかななくてはいいけません。

私も、（今でもそうですが）この仕事を始めたてのころは、つい、手を出しすぎていました。だって、教師は子どもに何かするのが仕事だと思っているし、何かしてないとサボってるみたいと思われるかもとか、余計なことも考えるわけです。でも最近ようやく、逆

に、子どもをじっと見守ったり、子どもの次の出方をじっと待ったり、行動としては傍から見ると何もしてないように見えるところに教師の大切な仕事があるんだと、少し分かってきたように思います。

それからもう一つ、手を出しすぎないようにしても、声のかけ方も大切です。叱ることと、ほめることは、正反対のこのようにとらえられがちですが、どちらも心理学の用語で言うと「ストローク」といって、「かまう」ことであるということにおいては同じなんです。だから、きちんと叱ろうとかほめて育てようとか、いろいろ言いますが、どちらにしてもあまりかまひ過ぎないことが大切です。叱るときは行動を叱るようにしたほうがいいです。「あんたなんでそんなことするの!」というのは、行動ではなく人を責めてますよね。ほめるときも同じく行動をほめるようにしたほうがいいと思います。何がよかったのかははっきりすると思います。

また叱る時は短く、ほめるときは比較的派手にしたほうがいいですね。たいていがこの逆になりますよね。つまり、叱る時に派手に叱って、ほめるときは地味。これは誤学習を招くことがあります。叱ることもほめることもストロークですから、たとえ負、マイナスのストロークであっても、かまってほしさに「派手に」かまってもらえる「叱られる」行動の方をたくさんしようと思ってしまうかも知れません。この、誤学習を招くミス、職場で私たち自身がよくやっちゃって、あとで冷静にふりかえったとき、自らの行動を反省することが多々あります。子どもの顔をよく見てください。叱られた時、嬉しそうにしていませんか。叱る以外のときでどれだけ、子どもをかまっていますか。

「手を出さず 口を出さずに 目をかける」というのを、公文で働いていたときに同僚と標語のように言いあっていたのですが、これはほんとうに大事だと思います。

では、手を出したり、やいのやいの言うのができるだけ少なくして、子どもが自分でできるようにするために、大人は何をしつらいのかというのを次にみていきます。

②示す—情報整理

それは環境を整えるということです。ひとつめは、**片付ける**ことです。つまり一度に入ってくる刺激を減らす、子どもが受け取る情報を整理することです。例えば食事場面で、子どもが遊んで仕方が無い、というとき、おもちゃが出たままとかテレビがついてるとか、おもしろそうな誰かがいるとか、たくさん情報が、刺激があって、ごはんに集中できない、ということがあるので、できるだけ片付けることが基本だと思います。

ふたつめは、**場面設定**をすることです。食事、遊び、学習、サラート等、読みとってほしい情報を際立たせるよう、それらしい**しつらえ**をするということですね。例えばサラートの時もそうですよね。サラートって、私は「アルハムドリッター、イスラームって本当にすごいなあ」と思うのですが、サラートの時にはそれらしいしつらえが元からたくさんありますよね。まずウドーをして、ドゥアをして、場所を整え、サッジャーダを敷いて、ふさわしい服装をして、方向も決まっています、これは全て環境設定ですね。すごいなあと思います。しつらえといのはそういうことです。子どもに読みとってほしい情報（いま何をやる時間で、ここは何をする場所で、どういうふうにするのか）を際立たせるということです。

逆に、子どもが、大人からみてやってほしくない行動をするときの裏には、必ずそれを招く刺激があります。まずそれを探して、除去することが大事だと思います。もちろん、経験して学習したほうが良いこともあります。例えば熱いものをどうしても触りたがる時、少し触らせて分からせるということがあるかも知れません。

もう一つですが、情報整理ということで、注意するとき「それはダメ！」と言うよりも、別のやり方、行動を示すほうが分かりやすいですね。子どもが道のど真ん中を歩いて危ないというとき、「道の真ん中を歩いちゃだめ！」という、今やっている行動を否定されているだけなので、よく分かりません。それよりも、「道の端を歩きましょう」という

ほうが、どうしたら良いのか分かりやすいですね。「立ちません」じゃなくて「座りましょう」とか。特に子どもは、なぜそれがダメなのか分かっていないこともあるので、否定されるよりやるべきことの指針を示す方が、受け入れやすいと思います。

③示す—思わずやってしまう環境づくり

さらに、子どもが思わずやってしまう環境づくりということで、まずは、**大人が楽しそうにやっている**ということは、すごく良いと思います。例えば、歌を歌いながらする、子どもにチラ見せするなどです。私は職場でも歌を歌いながらしているんです。トイレに誘導する時も、トイレ中も、歯みがきをするときも…そうするとだんだん、歯みがきが苦手な子どもが歌を楽しみにして、歌ってほしい歌をリクエストしてきたりするんですね。また、子どもにとって、魅力的なものというのは、ちょっと、手が届かないけど、ちらりと見えている、そういうものなのだそうです。ですので、子どもに何かしてほしい場合にわざと最初隠しておいたりします。またはこそり大人が先にしているとかですね。国語教育の大村はま先生という方の著書にも、本を読む子どもに育ててほしいというとき、教師が1人でおもしろそうに本を読む姿を見せて、「何それ？」と言ってきても、「見せてあげない」くらいで最初は良いとありました。

あと、**子どもが自分で分かる、できるかたちにする**というのも大事ですね。実は結構そういうことが、あいまいになっていることがあります。

例えば、ごみ箱ってありますよね、意外とあれは分かりにくいと思います。なぜかというと、「ごみ箱」って、形が決まっていませんよね。四角いものもあれば丸いものもあり、ふたがないものもあればふたつきのものもあり、段ボールなど、そうでないものが臨時的にごみ箱になったりします。そこで私の職場では、このマークを使っています。これは「くずもの入れ」というマークなのですが、これをごみ箱やごみを入れるものにつけてあると、何であれそれがごみ箱だと分かりやすいです

よね。

トイレも同じです。こちらの協会事務所のトイレにも、トイレのマークがついていて、誰にでも分かりやすいですね。これも環境整備ですよ。何もきかなくても自分で分かりますね。さらに、子どもをトイレに誘う時、「トイレ」という言葉がまだ定着していない場合、このトイレマークがカードになっているものを示します。それでも分からなければおむつやパンツなどの実物を示します。もしも、それらの手立てなしに無理やり連れて行くこうとするとどうでしょうか。子どもは自分がどこに連れて行かれるのか、何をすべきなのか全然分かりませんね。

ウドゥーの手順もそうです。例えばこんなの、あったら便利かなと思うのですが、これは牛乳パックなんです。油性で書けば水もはじくし、おしげなく使えるものですよ。このようにリスト状にしてもいいし、カード状にしてめくるようにしても良いですね。実物で分かる時期の子どもなら写真でもいいし、だんだん絵や字を使ってもいいですね。職場ではとてもよく使われていて、例えば歯磨きの手順などもそうですね。子どもたちがそれらを見ながら、自分ひとりでできるようになっています。

サラートグッズなども、分かりやすく、まとまっていて、すぐ手に取りやすい形であるのとないのとでは、大違いだと思います。それがこの「どちらがすぐうがいをする気になるでしょうか」という例です。これは実際私自身の例なのですが、外から帰ったときなど、うがいをしないといけないというのは分かっているつもりです。でも、うがい用のコップを決めていなかったとき、うがいをする時の手順は、まずコップがたくさんある食器棚をあけて、コップを選び、出して、それからうがいをするというもので、ついつい億劫になっていました。ところが、ある日、気に入ったコップを見つけたので買ってきて、うがいをする場所のすぐ上に吊り下げたのです。すると、うがいをするときの手順は、そのコップを取る、これだけ、ワンステップになりま

した。そうすると、百発百中でうがいをできるようになりました。このようにサラートグッズなども、子どもがパッと使える形にしてあるといいと思います。

サラートの時ですが、右と左が分からない場合がありますよね。そういう時は、どちらかの腕に、何でも良いのでアームバンドとか、腕に巻けるものをつけると分かりやすいと思います。そういうのがあると、いちいち大人が言わなくても良いし、子どもからすればいちいち言われなくても自分でできるということになると思います。

3、ヒントは子どもの中にある

まとめになります。子育てに正解はありません。正解はないと分かっている、困ると探したくなる、頼りたくなるのが正解っぽい何かだと思います。だけど困った時こそ、そんなものはないと、腹をくくらないといけません。でも、ヒントは子どもの中に必ずあります。子どもを見つめることから出発しましょう。そこから始めさえすれば、試行錯誤、紆余曲折しても大丈夫です。外側の何かを無理にあてはめたり、比較したりしてしまうことで、問題はでてきます。そして、子どもはもともとやる気をもっています。やる気を引き出すというより、「活かす」といったほうがふさわしいかもしれません。子どものエネルギーを押さえ込もうとするより、良い形に誘導する方向に大人の力を使いましょう。最後に、子育てはオーダーメイドです。既製のやり方は通用しないと思っていたほうが良いです。表面的なやり方をあれこれかじるよりも、その子ども自身をよくみる、寄り添う姿勢が大切です。そのこと自体が子育てとも言えるかも知れません。

以上です。ありがとうございました、
ジャザークムッラーフ ハイラン！

座談会 日本で楽しくムスリム子育てをするには？

☆皆さんにききました！！「日本で楽しくムスリム子育てをするには??」

- ♪ 姉妹同志のつながりに積極的に参加する。
- ♪ 家庭内だけだとバランス悪いので、保護者同志交流を深めて、お互いの子育てに協力できたらと思う。
- ♪ 仲間づくり（親子ともに）。
- ♪ 親や子どもたちが集まって話せる環境が必要。
- ♪ 日本でどこにいても堂々とムスリム家族が過ごせたらいいと思いました。
- ♪ 私は特に子どもたちに「イスラーム教育」ということはしていないのですが、「アッラーがあなたを望んだからこそ生まれたんだ、アッラーが愛している、いつもアッラーが見てる、アッラーは全てを知っている」と言うことをくりかえしてきました。
- ♪ ムスリム家庭らしさとそれ以外の良さをうまく組み合わせられたらいいと思います。
- ♪ 子どもと楽しめる教材を使う。
- ♪ いま、布おむつで子育てをしている。これから成長していく過程で、子どもが何かつらい気持ちになるようなことが起こったとき、子どもはそれを言葉では言わないと思う。言ってくれなくてもそれを「感じる」ことができる親になるために、今から準備をしようと思っている。
- ♪ 子どもがいる人もいない人も含めて、ムスリムとしての生活をしていき、横のつながりをもって、社会全体で子育てをしていくことが大切だと思う。

☆座談会で話したことから抜粋

- ・ 近所の人、幼稚園、学校とのつきあい、子どもどうしのつきあいについて
 - ★ たえばお菓子の交換など、「うちはこれはダメ！」というのではなく、「これとこれなら食べられる」とちゃんと伝えると、友だち（子ども）はちゃんとそれを選んでくれた。
 - ★ イフタールに子どもの友だちを招待した。珍しい料理が食べられたと、みんな喜んでくれた。ムスリムはこういうことをするんだということを自然に分かってもらえた感じがした。明るいイメージが親にも伝わったと思う。

○座談会の感想より

- 体験談等、聞いて参考になったり、自分だけでないんだというはげましにもなりました。
- 皆さんのお話を聞いて、改めてこのように座談会の重要性が大切だと思いました。子育ての待つ、見守ることは何もしてないこととは違うように、座談会はお茶会ではないのですね。（今回参加した理由の一つにこの座談会があったから）
- 日本の中で、ムスリムの子どもを育てていくことで一番考えることが多いのは、やはりノンムスリムの人たちとの関係、特に幼稚園、学校を通しての関わりだと思います。ムスリム側が「これはダメ、あれはダメ」と否定的な言葉ばかり使っていると、相手も構えるし、つきあいにくいなと思うのは当然だと思います。PTAや地域（自治会など）との関わりを積極的にもって、口ではなく、行動でイスラームのことを自然に分かってもらうのが良いのではと思います。理想と現実は違いますが、分かってくれる人（理解し

ようとしてくれる人)は必ずいるものです。

- 皆さんいろいろな環境で子育てしてきた方、子育てに参加してきた方なので、自分を客観的に見つめなおすこともできました。自分の子どもがもっと成長していくと、私たちもいろいろな問題に直面し、解決しなくてはならないと思いますが、そういう場合のヒントを見つける場所として、またこのような場があるといいなと思います。

○講座の感想より

- 24時間子どもと一緒にいると、お互い新鮮なことがなく、日々うちの中で悶々としていくことがあります。「この子の成長に何のプラスにもならない…」とあせっていたり、ということがよくあります。今日のお話をきいて、何か新しいことを求めるよりも、今までの生活をふり返り、お互いに足りなかったことを少しずつ改善していくことの方が大切かなと思い始めました。
- 子どもの成長と言えばどうしても勉強などに目がいきがちなので、身辺自立ときいてとても納得できました。
- 「身辺自立がすべての基礎」というお話をうかがい、やはり基本が大事だなと思いました。「世界を感じる力＝アッラーを知る力」というのは同感です。「やる気を引き出す環境づくり」で「介入しすぎない」というのがありましたが、私は介入しすぎだったかなと反省しました。カード類のアイデアはうちも使ってみようと思いました。
- 自分のこどもにあてはまり、参考になることが多くありました。身辺自立や感覚統合のお話をきいて、ちょうど基本的なことを大切にする重要性について最近は何度も考えていたので、念押しして改めて実行する必要があること（なかなか後回しになっていたの）を言ってもらえて良かったです。ようやく気づき始めたことが言葉になり、形になって、よいアドバイスになりました。
- 子どもの言動に対して、どうしたらよいのかと悩んでいました。今日の講座で子どもの方を改善する前にまず親の方がアプローチ方法を改善しなければならないことを学びました。またその方法を何から始めるかを教えてもらいました。
- 育児講座自体、初めて参加しましたが、分かりやすいお話と、ときどき感じていたことが整理できたのがよかったです。

○託児の感想より

- ★ 自由にさせてくださり、また細やか丁寧にしていただき、講座に徐々に集中でき、本当にジャザーキッラーフ ハイラン。
- ★ 小さいのですと見ていただくことはできなかったのですが、時々見ていただけただけでも助かりました。
- ★ おかげさまでゆっくりお話が聞けました。託児がなかったら参加をためらったかも、です。ありがとうございました。

図 1

感覚統合

言語・認知

巧緻性
(目と手の供応)

粗大運動 重力 バランス

触覚 前庭覚 固有覚 視覚 聴覚

「LD児の言語・コミュニケーション障害の理解と指導」
日本文化科学社 P37 感覚・運動発達の階層性 より作成